
sunday morning

tsubomi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

sunday morning

【コード】

N6655B

【作者名】

tsubomi

【あらすじ】

ある天気の良い日曜日、万理は目覚める。そして・・・

今日は日曜日。天気は晴れ。

万理は窓から外を眺めた。気持ちのいい風がほほをなでる。

「いい天気。」

こんないい天気の日、なんだかウキウキする。何か新しいことが始まりそう。

お気に入りの絹のネグリジエ、柔らかいベッドマット、大きなテディベア。

すべてが新しく、新鮮に見える。

万理は冷蔵庫から牛乳瓶を取り出し、グラスに注ぐ。

ゴクゴクゴク。

眠たい体の中に流れ込む、真っ白な液体。昨日までの事をすべて流していく。きれいさっぱり。

万理と啓介は4年付き合った。どちらの親も公認のふたり。

ところが突然、昨日啓介から1本電話がかかってきた。

「万理、別れよう。」

万理は驚かなかった。

「うん。」

付き合って4年。啓介は変わった。いつの間にか、二人はすれ違つようになった。いつからだっただろうか、もう思い出せない。気がつけば好きな映画も、服装も、色も、食べ物も、全部合わなく感

じるようになった。

万理と啓介は、お互い弁護士という忙しい職に追われ、ここ数ヶ月、ずっと会わない日々が続いた。そしてある日、万理は気づいた。もう自分のそばに啓介はいないということを。そして啓介のそばには、誰か、万理じゃない誰かがいるということ。

付き合って4年。万理と啓介は終わった。

「俺たちは赤い鎖で結ばれているんだよ。」

付き合って間もないころ、よく啓介が万理に言っていた。

「赤い鎖も、いつのまにか錆びて切れちゃったね。」

冷たい牛乳を飲み干し、万理はぽつんとつぶやく。

今日は日曜日。天気は晴れ。

なんだか、新しいことが始まる予感がする。

(後書き)

最近、恋人と別れた後、寂しいけれど、ちょっとワクワクするような気持ちを感じました。

みなさんはどうですか??

よかったら感想をお寄せください。

読んでくださって、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6655b/>

sunday morning

2010年12月3日06時05分発行